

クリーン開発と気候に関する
アジア太平洋パートナーシップ（ＡＰＰ）第４回政策実施委員会（ＰＩＣ）
～ 概要と評価 ～

２００７年７月２０日
日本政府代表団

１．会議概要

- (1) 日 時：２００７年７月１９日（木）及び２０日（金）
- (2) 場 所：東京（グランドプリンスホテル赤坂）
- (3) 参加国：日本、豪州、中国、インド、韓国及び米国の６ヶ国。
(注１) 我が国からは、西村外務省気候変動問題担当大使、本部経済産業大臣官房審議官、南川環境省地球環境局長他が参加。
(注２) 総計で約１３０名が出席（民間メンバーを含む）。
(注３) カナダが、オブザーバーとして参加。

２．結果

- (1) タスクフォース（ＴＦ）の進展
８つのＴＦ議長（又は代理）から各プロジェクトの進捗状況等について報告があった。
我が国が議長を務める鉄鋼ＴＦ及びセメントＴＦについては、ベストプラクティスやプラント毎のエネルギー消費等の実態調査に係る進捗状況について報告。更に、両ＴＦ議長から、中国及びインドに対する省エネ診断のための専門家派遣の検討状況について説明。
なお、鉄鋼ＴＦに関しては、省エネ技術を特定し、かつ、それら技術の普及状況に照らしたＣＯ２削減ポテンシャル（６ヶ国で１２７百万ＣＯ２トン／年）を試算、といったアプローチに対して、各国から高い評価を受けると共に、同ポテンシャルの削減に向けた次のステップについても強い関心が示された。
- (2) 国際金融機関との協調
今次委員会では５つの国際金融機関（アジア開発銀行（ＡＤＢ）、地球環境ファシリティ（ＧＥＦ）、国際金融公社（ＩＦＣ）、国際協力銀行（ＪＢＩＣ）及び世界銀行（ＷＢ））が参加し、ＡＰＰプロジェクトを実施する上での資金調達等について対話。
今後、各ＴＦと各金融機関との連携強化により、各プロジェクトに対する具体的な支援等について検討。
- (3) ＩＥＡとの協力
ＩＥＡから、ＩＥＡが実施しているセクター別のベストプラクティスやベンチマークの評価の状況について説明。
今後、同様の取組みを進めている鉄鋼ＴＦ、セメントＴＦ等がＩＥＡとの協調を進展させることとなった。
- (4) 閣僚会合の開催
第２回閣僚会合については、本年秋にインドで開催する予定。同閣僚会合の具体的日時、構成、議事等については、引き続き検討。

3. 評価

- (1) 我が国が議長を務める鉄鋼TF及びセメントTFの活動が進展。今後は、他のTFをリードする立場であることを認識し、APP全体の促進・強化にも貢献。なお、鉄鋼TFに関しては、省エネ技術を特定すると共に、それら技術の普及状況に照らしたCO₂削減ポテンシャルが、6ヶ国で127百万CO₂トン/年(日本の温室効果ガスの総排出量の1割に相当)であることを報告、各国から高い評価を受けるとともに、国別削減ポテンシャルの把握についても、強い関心が示された。
- (2) 中国やインドに対する省エネ技術の移転等について、政府による直接支援は自ずと限界があることから、B to Bの促進が重要。この観点で、今回行われた国際金融機関との対話は、良い契機になるものと期待。なお、各TFとこれら金融機関の間では、具体的な支援に係る議論が継続されるものと理解。
- (3) 今回、IEAとの間に重要なパイプが築かれたため、今後の各TFとの継続的な意見交換が期待される。

(参考)APPについて

1. APPは、アジア太平洋地域において、増大するエネルギー需要、エネルギー安全保障、気候変動問題に対処することが目的。具体的には、クリーンで効率的な技術の開発、普及及び移転のための地域協力を推進。
2. 8つのセクター別のタスクフォースが設けられ、少数の主要排出国で官民を交えたパートナーシップを築き、具体的な技術協力のプロジェクトを実施していくもの。
なお、8つのタスクフォースを束ねる会合として政策実施委員会が設けられている。
(注) 8つのタスクフォース：「よりクリーンな化石エネルギー」、「再生可能エネルギー」、「発電及び送電」、「鉄鋼（我が国が議長国）」、「アルミニウム」、「セメント」（我が国が議長国）、「石炭鉱業」及び「建物及び電気機器」。
3. これまでの経緯
2005年7月 ビジョン声明を発表
2006年1月 第1回閣僚会合及び第1回政策実施委員会（於；シドニー）
2006年4月 第2回政策実施委員会（於；パークレー）
2006年10月 第3回政策実施委員会（於；濟州島）
2007年7月 第4回政策実施委員会（於；東京）
2007年秋 第2回閣僚会合（於：インド）（予定）